

あいち病害虫情報 最新情報

平成24年7月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

盛夏到来！

気象庁によると東海地方は、7月17日頃に梅雨明けしました（平年は7月20日）。7月13日発表の1か月予報によれば、期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多く、その後は晴れる日が多い見込みとなっています。ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、天候を考慮に入れて、的確な防除を心がけましょう。暑さの厳しい時期なので、農薬の散布に際しては、朝夕の涼しい風の少ない時間帯を選んで作業するなど、健康管理にも留意しましょう。

イネの病害虫

葉いもちが一部のほ場で確認されるようになりました。全体的には少ない発生量ですが、中山間地域では、やや多く発生しているほ場もあります。曇雨天が続いた場合、葉いもちから穂いもちへの移行が心配されます。いもち病の発生状況や防除薬剤については、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第3号」を参考にしてください。

セジロウンカは、6月下旬の巡回調査では発生を確認しませんでした。7月上旬の巡回調査では県内全域で発生を確認し、発生量は平年に比べやや多い状況です。短期間にまとまった量が飛来したと推測されます。普通期栽培品種では被害が発生する可能性があるため、ほ場での発生状況に注意してください。トビイロウンカについては、現在のところ発生を確認していません。

斑点米の原因となるアカスジカスミカメ、ホソハリカメムシやクモヘリカメムシなどの斑点米カメムシ類の水田内および畦畔のイネ科雑草における発生量は平年並です。ただし、ミナミアオカメムシは発生量が例年より多くなっています。また、予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数は東浦町と豊川市において、6月中旬以降、平年より多くなっています。斑点米カメムシ類は水田周辺の畦畔や土手などに生息するイネ科雑草などで増殖するため、除草に努めましょう。しかし、出穂期間際の除草は斑点米カメムシ類を逆に水田へ追い込むことになるので控えてください。発生状況や防除薬剤については、本日発表の「斑点米カメムシ情報第2号」を参照してください。

果樹の病害虫

モモ灰星病の発病果を見つけたら、直ちにほ場から持ち出して適切に処理しましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、伝染源となる発病葉や発病果を除去して適切に処分するとともに、耐性菌の発生を避けるため、同一系統薬剤の連用を避けて防除を行うよう心がけましょう。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数及び誘殺ピーク時期は、おおむね平年並で推移しています。7月以降は果実に侵入する重要な時期になります。成虫の発生ピークから6日後頃が防除適期になるので、フェロモントラップの誘殺状況を参考に、適期防除を心がけましょう。また、コンフューザーを設置しているほ場で、7月以降に再度設置する予定がない場合は、収穫期間中に効果が低減し、ナシヒメシンクイなどによる被害が出る可能性があります。今後の発生動向に十分注意し、適期防除を心がけましょう。

ブドウベと病は、曇雨天が続くと急激にまん延するので、天気予報を参考に防除を徹底しましょう。

果樹カメムシ類の飛来に注意！！

予察灯及びフェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、気温の上昇にとともに、7月上旬から増加傾向にあります。

現在、チャバネアオカメムシはスギ・ヒノキ球果を餌として生育していますが、餌がなくなると、果樹園に飛来してきます。今年は、越冬世代成虫の発生量がやや多く、スギ・ヒノキ球果量がやや少ないため、餌を求めて果樹園へ大量飛来することが懸念されます。ほ場への飛来状況に注意しましょう。詳しくは、本日発表の「果樹カメムシ情報第3号」を参照してください。

チャノキイロアザミウマ

アメダス各地点におけるチャノキイロアザミウマの第4世代成虫の発生ピークは、東海市、名古屋市7月26日、伊良湖7月29日、愛西市、蒲都市7月30日、豊田市、南知多町、豊橋市7月31日、岡崎市8月1日、新城市8月3日と予測されます。また、稲武町では第3世代成虫の発生ピークが8月5日と予測されます。成虫の発生ピークは、7月2日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」における予測日と同じか1日遅くなっています。今回発表の発生ピーク予測日を目安にして、ほ場を観察し適期防除に努めましょう。ウンシュウミカン、ブドウ及びカキの防除薬剤については、「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参照してください。

トマトの苗はタバココナジラミの寄生に注意！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが露地で活発に活動する時期です。トマト栽培が周年化している産地では、育苗時におけるTYLCVの感染防止が特に重要なので、タバココナジラミに効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

オオタバコガ

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、稲沢市、豊川市ではおおむね平年並ですが、豊橋市においては7月上旬に平年よりやや多くなっています。ほ場での発生状況に注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

予想される向こう1か月の天候

期間のはじめは平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みですが、その後は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率40%です。降水量は、平年並の確率40%です。週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率40%です。3～4週目は、高い確率40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

〔気温〕	低い	：30%	平年並	：30%	高い	：40%
〔降水量〕	少ない	：30%	平年並	：40%	多い	：30%
〔日照時間〕	少ない	：30%	平年並	：40%	多い	：30%

農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止

農薬を使用する前に、ラベルの内容をよく確認し、使用方法を守りましょう。

農薬の飛散防止に努めましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

暑い時期です。作業中に熱中症にならないよう注意しましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820